

面白いラグビー

最近、「面白いラグビー」に注目が集まるようになりました。試合の勝ち負けだけでなく、ラグビーの内容や勝ち方の面白さが真剣に話題になってきたことは喜ばしいことです。多くの人に「面白いと思ってもらえる」ことが、ラグビーの人気復活・普及に大切であることが認識され、ラグビーの中身が問題にされることは重要なことです。「面白い」というのは、プレーヤーにとっても観衆にとっても面白いことです。プレーヤーにとって面白いということと観衆にとって面白いということは一致しないという誤った概念を捨てさねばなりません。

プレーヤーのラグビーを「楽しむ」という言葉に対し、勝利に対する意欲レベルの低さを物語っているとする短絡的な批評は、「楽しむ」という言葉の幅の広さと深さを理解していないものだと言わざるを得ません。激突が誇張されるラグビー界で「楽しむ」という言葉が使われますと「甘い」とか「理想的」という冷ややかな批評がなされます。「楽しむ」という言葉における理念の深さに共通の理解が必要です。

面白いということは、前提として分かり易いということがあります。分かりにくいと面白くないのです。「ラグビーは分かりにくい」という声がありましたが、ラグビー界では分かり易くする思索がなされ方策がすでに練られています。そして、それに先行する位に改善するための努力がのぞまれています。

Rugby Law Reform Project underway
18 FEBRUARY 2006

We are looking at the game in a new light with the idea of making it simpler and easier to play and referee, and to ensure Rugby is understood and enjoyed by the increasing number of spectators that are being attracted to the game.

レフリーにとっても分かり易いものでなくてはなりません。ラグビーの普及・発展のために分かり易くて面白いことが必須条件ですが、ラグビーは楽しいものです。

ここで、改めて RUGBY POST Autumn 1974 の記事 ([西川ラグビーコラム既載](#)) のコピーを見てください。

RUGBY POST 第 1 号が出された経緯、目的などが書かれています。

RUGBY POST Editorial Board の氏名と協力者のことも書かれています。ラグビー界のトップの人たちで、画期的なものです。本誌が創刊された 1974 年当時のことが本文にも書かれていて、イングランドラグビー界の意気込みがわかります。

Unquestionably, Rugby Union Football has improved tremendously over the last six or seven years.

1960 年代から始まった大改革は、The Guide for Coaches やハンドブックの出版をはじめとして、1971 年 RFU 100 周年で世界が一つになるとともに改革は一層加速され、W 杯への筋道ができました。Don Rutherford がプロ第 1 号として Technical Administrator に就任するなどプロ化への流れも加速されました。COACHING SCHEME が作成され、BETTER RUGBY の出版と機をおなじくして発行されました。ラグビー協会の mouthpiece 代弁者でないということを明確にするとともに、RUGBY POST の目的を次のように自信をもって述べています。

to stimulate and inform the player, coach, referee, club official and spectator

目的はプレーヤー、コーチ、レフリー、クラブ役員、観客を激励し情報提供することであるとすごい意気込みのなかで、大きく掲げられた「ENJOYMENT」という表題で、方向性と目標を示す大切なものなのです。

本文を初め紙面一杯に、ラグビーの母国イングランドの、ラグビーへの熱い思いや復興への情熱と意気込みがあふれています。その復興のキーワードが「ENJOYMENT」だったということは大変重要なことです。enjoy は受動的ではなく積極性を含み、自主的で明るい観念と、抑圧されない活動責任に基づくものです。スポーツに対するあるべき人間の姿勢が教示されています。男のスポーツという言い方が否定されているだけでなく、紳士のスポーツと一人よがりも通用しません。勝負を争う戦いの中で、fair であることと、同時進行で楽しむことと、勝つための活動とを混濁させることなく、持てる力を全て発揮して自己表現する楽しさ、それが勝つという結果に結び付く喜びと、その過程を「楽しむもの」と総括し、ラグビーを楽しむ場合の心構えを含めて、今後も続けられ楽しむ工夫が、自由で flair に富むことが期待され、多くの人

達の楽しむ心と姿勢が大切であることを痛感します。

面白くないラグビーは多くの人から愛されません。反則を少なくすることに真剣に取り組み、立ってプレーし続けることによって間違いなくもっと面白くなるのです。

キーワードは「good, bright, interesting Rugby」です。

2006.XX.XX

西川 義行